

精密に人体再現、貴重資料

南丹・旧吉富小 教材用模型、昭和初期に制作



島津製作所が昭和初めごろ制作したとみられる人体模型(南丹市八木町・旧吉富小)

南丹市八木町の旧吉富小にある教材用の人体模型が、地域住民や専門家らの関心を呼んでいる。島津製作所が昭和初めごろに制作した模型のうち、保存状態が良好な数少ない貴重資料として、3月まで東京都の国立科学博物館で開かれた「日本を変えた千の技術博」(同館など主催)にも出品された。

東京でも展示 「地元の宝として活用」

旧吉富小は1873(明治6)年に「明遠小」として開校、児童数の減少で2015年3月に閉校した。人体模型は高さ約1.5メートルの紙製で、ガラスケースの中で保存されている。人体の科学的な知識を知ってもらうため、体の左半分の血管を彩色して細かく描かれ、心臓や肺などの部位を取り外すことができる。臓器

などの名前も記されている。島津製作所創業記念資料館(京都市中京区)によると、1934年に作られた商品カタログに同種のもものが掲載されているという。同館は「昭和初期に作られた可能性が高い。表面に特殊な塗料が塗られ、防水や色落ちしない加工が施されている。残っているのは大変貴重」としている。

千の技術博は明治150年を記念して催された。人体模型は科学教育の始まりを説明するために使われ、多くの来館者が見学した。旧吉富小の「吉富ノ庄運営委員会」の廣瀬稔会長(75)は「精密に人体が再現されており、地元の宝として大切に活用していきたい」と話した。

(秋田久氏)